

各学科・専攻学修状況の報告（5）文化創造学専攻の学修状況

○久世 文化創造学専攻の久世と申します。よろしくお願いいたします。

文化創造学専攻は、「書道・国語専修」「観光専修」「アーカイブ専修」の三つの専修に分かれています。

専攻の教育方針は三つ（スライド 1）挙げておりますが、特に三つ目の「新しい学びを加える」ということを特長としております。例えば、アーカイブ専修に入った場合に、アーカイブ専修だけの学びではなく、それ以外の専修の学びも副専門というかたちで学べるようなカリキュラムを組んでおります。アーカイブ専攻でアーカイブの学修をする。その学生が学校教育専攻で教員の免許を取ることもできるような学びを考えています。なるべく付加価値が高い専門性を持ったハイブリットな人材を養成していきたいと考えています。

ここでは、コア・カリキュラムの構成の設定と学習内容・行動目標による授業改善を中心にお話をさせていただきます。

今までの専攻の説明のなかにも、コア・カリキュラムの構成の設定と学習内容・行動目標について説明させていただきました。そこで、そのコア・カリキュラムをどのように設定し、どのように評価をして授業改善に結びつけているのかについてお話をさせていただきたいと思います。

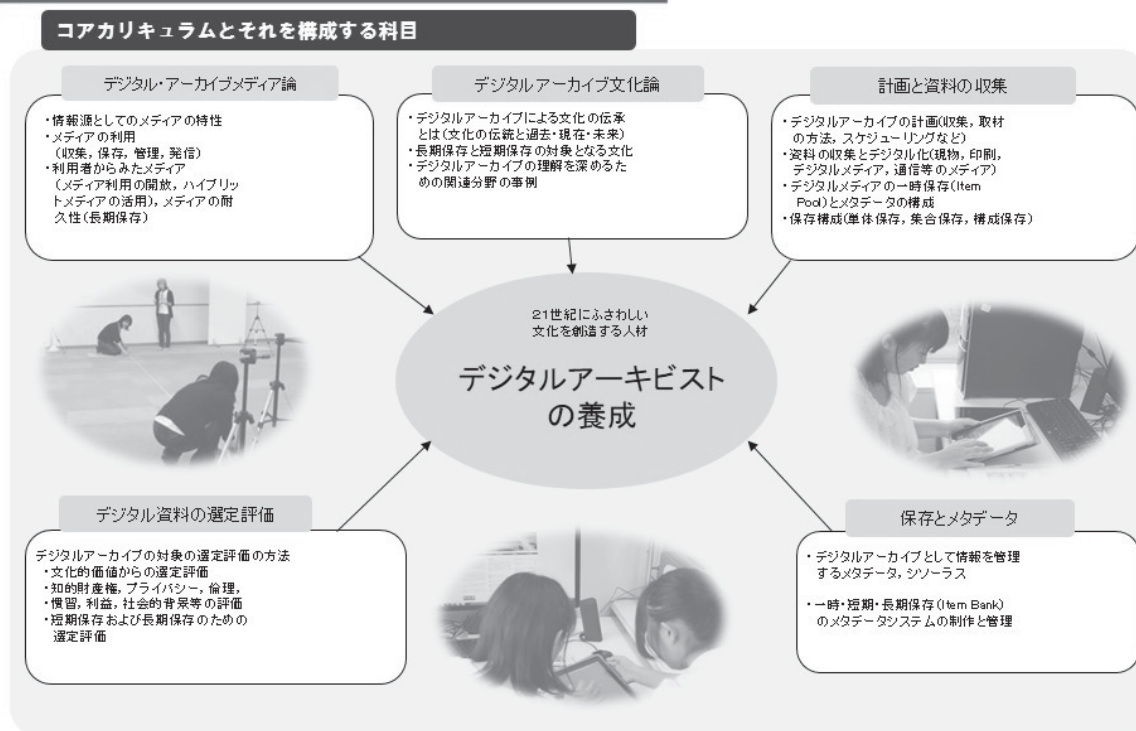


文化創造学専攻の教育方針

1. 多様な文化創造活動に関し専門的かつ実践的な力を持つ人材を育成する。
2. 日本文化の基礎を踏まえた教育活動ができ、地域社会の一員として文化の伝承と創造に取り組む人材を育成する。
3. 主たる学びの領域に、新しい学びを加えることで、付加価値の高い専門性を持ち、継続して学ぶことのできる学習意欲の高い人材を育成する。

<文創スライド 1 文化創造学専攻教育方針>

コアカリキュラムとそれを構成する科目



目指すキャリア : デジタル・アーキビスト, 博物館学芸員, 図書館司書, 上級情報処理士, 小学校教諭免許

<文創スライド2 アーカイブ専修コア・カリキュラム>

例えば, これ(スライド2)はアーカイブ専修のコア・カリキュラムの構成です。アーカイブ専修はデジタル・アーキビストの養成が中心ですので, 五つのコア・カリキュラムを構成しています。五つのコア・カリキュラムについて, 「指導目標」「実施状況」「達成の評価」「改善案」を毎年設定しております。指導目標は, 何を指導するのか。また, それをどのように実施しているのか。達成状況はどうか。今後どのように改善するのかについて各専修のなかで考えているわけですが, ここでは特にどのように授業の改善に結びつけていくのかということが重要です。

ただ単に評価をするだけでは何も意味がありません。本学としては, 評価を授業改善等にどのように結びつけていくの

指導目標(行動目標)に準拠した評価

学習のゴールは, どこまで達したか自己評価しよう

評価対象

4.A 人物の撮影ができる(ライティングなどの注意して)	友達に聞いてできる	プリントを見ればできる	一人でできる自信がある	他の人に説明ができる
	1	2	3	4

- ① 友達に聞いてできる
- ② プリントを見ればできる
- ③ 一人でできる自信がある
- ④ 他の人に説明ができる

<文創スライド3 評価項目例>

かということが重要だと考えています。また、授業改善だけではなく、テキストの改善、教材の改善というところにも結びつけていきたいと考えています。

指導目標を設定したときには、その指導目標に準拠した評価をします。例えば、「人物の撮影ができる」という指導目標があった場合に、これができるかということの次の四つの行動目標で学生には質問をしています。

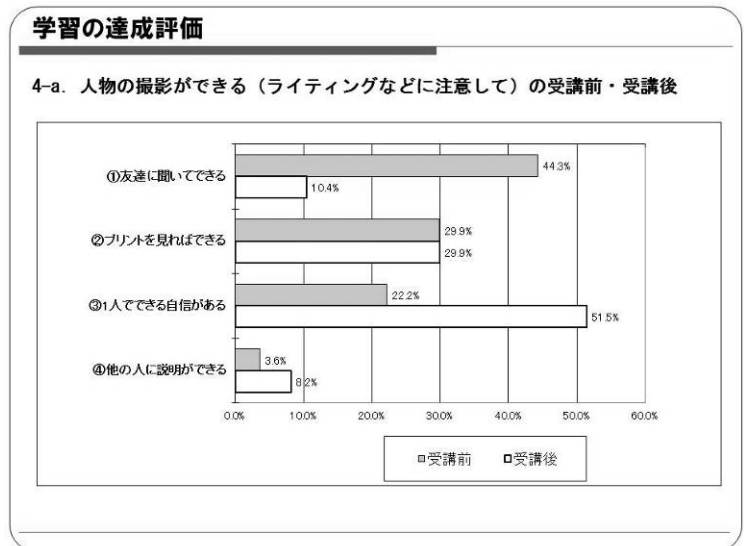
「友達に聞いてできる」
「プリントを見ればできる」
「一人でできる自信がある」
「他の人に説明ができる」。この「他の人に説明ができる」というのが、ある意味では、指導目標ということになるわけです。

実際、この指導する前後で、今の質問についての評価を見ますと、このような（スライド4）変化が出てきています。当然、最初は指導する前ですから、「友達に聞いてできる」「プリントを見ればできる」というのが多いわけです。しかし、指導後には「一人でできる自信がある」「他の人に説明できる」という学生が多くなっています。こういうようなところを実際、一つずつの指導目標について評価していこうということです。

いわゆる「他の人に説明ができる」ことが増えていくことが、授業としては一番大切なことで、そのために、どのように授業を改善していくのか。または、教材を改善していくのかということを考えています。

従来はカリキュラムがあって、一つの評価をすることを今までも行っているわけですが、どうも改善、その後の実践というものにつながっていかないというところが問題になっています。行動目標とその評価を結びつけることによって、一つのを各プロセスごとに教材を繰り出して、学生の意欲を高めていくような授業改善につながっていけると考え、進めております。

また、その評価というものをどのように評価すれば、どのように改善をすればい



< 文創スライド 4 受講前後の比較 >

いのか。例えば、授業評価について、どこが悪いのかという理由も本学の学生たちに聞きながら、授業改善につながるような評価を考えております。

本年度から文化創造学専攻の一年生全員に iPad を持たせております。これは「大学全体の全ての場面」で、「研究活動のツール」として、「大学での教育利用」のために導入するものです。

iPad の導入についても、先ほどと同じようなかたちで、この各授業のなかで iPad をどのように活用

していくのか。または、それをどのように活用していたのか。また、それを評価としてどのように考えているのか。また、来年度はどのように改善するのかということ、それぞれの科目について評価し、改善を進めています。

教育用メディア端末(iPad)の導入による授業改善

文化創造学部入学生全員が1人1台の教育用メディア端末(iPad)を導入



<文創スライド5 iPad 導入>

新e-Learningシステム を活用した反転授業



教材、テキスト、授業アーカイブ、
評価

iPadやスマート
ホンでも視聴
可能



<文創スライド6 反転授業>

それと同時に、今年度、「e-Learning システム」も導入しました（スライド6）。これは「e-Learning」ですので、特に授業またはいろいろな講座をいつでもどこからでも動画で見ることができます。それも iPad で見るようにしていま

す。

これを「反転授業」というものに取り入れていこうと考えています。反転授業とは、通常の授業でやっているものを家庭で行い、授業のなかではディスカッションしたり、プレゼンしたりというような時間にする教育方法です。本学でも本年度よりこういう反転授業を少し取り入れております。

また、ラーニングコモンズといますが、いわゆる「e-Learning」というシステムがあっても、どこでも見ることができるような学修環境にはない学生もおりますので、学校のなかで、いつでもコンピューターで学修ができるような学修環境を整備しております。

さらに、現在、小・中学校には電子黒板が入っておりますが、本学にも電子黒板を導入しております。この電子黒板と iPad, それからラーニングコモンズを連携しながら、アクティブラーニングに結びつけていきたいと考えています。

ラーニングコモンズ(learning commons)

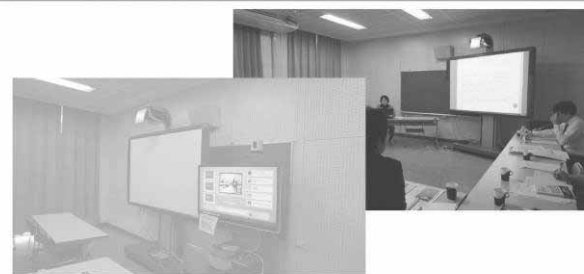
自学学習をする学生の利用目的や学習方法にあわせ、ICT(情報通信技術)を柔軟に活用し、効率的に学習を進めるための総合的な学習環境



<文創スライド7 ラーニングコモンズ>



電子アクティブボードの導入による授業改善



<文創スライド8 電子黒板>